

平成 30 年 6 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 津 村 尚 史
(コード番号：3446 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 平 井 靖 人
(TEL. 072-643-2292)

**米国X線自由電子レーザー施設LCLSからの
当社“Osaka Mirror”大型受注のお知らせ**

当社は、現在、世界最高峰の性能となっている米国スタンフォード大学内にある、SLAC国立加速器研究所（Stanford Linear Accelerator Center；SLAC）のX線自由電子レーザー施設LCLS（Linac Coherent Light Source）から、超高精度ミラー20枚を一括で受注しました。一括の契約額としては当社の中では過去最大となる約3.2億円（2019年6月期売上見込み）で、当社のこれまでの国内の大型放射光施設SPring-8やX線自由電子レーザー施設SACLAをはじめとする世界各国での実績に対する高い評価を示すものと考えております。

さらに当該施設での当社ミラーを利用した研究成果が、世界の各放射光施設※における当社の放射光用X線ミラー“Osaka Mirror”の必要性のご認識に繋がるとともに、当社オプティカル事業についてさらなる持続的成長に邁進してまいります。

※ 今後、世界各国で、建設中（アップグレードを含む）および、建設予定の20施設を超える第4世代放射光施設や、自由電子レーザー施設があります。

【X線自由電子レーザー施設（XFEL）】

現在の放射光施設で採用されているシンクロトロンよりはるかに長い直線加速部を有し電子を加速することができるため、第3世代放射光施設と比べ10億倍以上明るい光を超高速パルスで生成することが可能である。これにより、これまで極めて短時間に進む反応の前後でしか確認することができなかった物質の変化を原子レベルで超高速コマ送りのように捉えることが可能となり、放射光施設とはまた異なったアプローチにより、今後科学分野での飛躍的な発展に寄与することが期待されている。

【第4世代放射光施設】

従来のダブルバンドから、マルチバンドへと進化した放射光施設で、光の明るさが従来の第3世代放射光施設と比べて100倍以上となり、コヒーレンス性も高まるため、これまでではなし得なかった研究成果が、医学分野、エネルギー分野等で得られることが期待されている。

以 上